

## 研究所のさらなる発展をめざして

4月1日付けで所長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

当研究所は、水・大気環境・廃棄物、感染症、食品に加え、自然環境も含めた幅広い、環境・保健衛生を取り扱う試験・研究機関として、県内における環境の悪化や健康被害を未然に防止するため、種々の試験検査、調査研究、あるいは教育・研修、情報発信などの業務を行い、県の環境行政を科学的・技術的基盤から支えています。

環境分野では、地球温暖化等グローバルな環境問題がクローズアップされていますが、依然として大気、水質、廃棄物等への取組み（試験検査）も求められています。また、本年は生物多様性年としてCOP10が10月に愛知県で開催されることになっております。

保健衛生分野では、新型インフルエンザのような新しい問題への対応や食の安全と安心のための検査が求められてきております。

環境や健康に対する県民の関心の高まり、あるいは当研究所に対する多様なニーズにお応えすべく、県民の皆さんに信頼される、開かれた研究所を目指してまいりますので、今後ともご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

所長 荒井 高樹



## トピックス

### 第4期野尻湖水質保全計画が策定されました

ナウマンゾウの化石の発掘で有名な野尻湖は、県内最大の貯水量を誇る天然湖でもあり、観光資源として、また水利用の点からも、重要な役割を果たしています。

その野尻湖は、かつて淡水赤潮が発生したことから平成6年に湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼となり、水質の向上に取り組んできましたが、まだCOD（化学的酸素要求量）の環境基準を達成できていません。今年3月には第4期の水質保全計画が策定され、取り組みが続けられることになりました。

環境保全研究所でも、計画に沿っていくつかの調査・研究を進めています。そのひとつがソウギョ捕獲方法の検討です。野尻湖では、かつて放流されたソウギョにより水草が食べ尽くされてしまい、今でも湖内には水草がまったく生育できないので、健全な生態系を取り戻し水質の安定をはかるために、ソウギョの捕獲が必要なのです。そのために信濃町住民の皆さんの協力をいただいてソウギョ捕獲用の定置網の設置試行を行うなど、地元との二人三脚で進めています。

その他では、野尻湖に流入する河川の調査など、水質の向上のためいろいろな視点から取り組んでいます。

（小平由美子 kanken-mizu@pref.nagano.lg.jp）



地元住民と協働で定置網設置